

ドギーバッグ普及委員会による取組

持ち帰りたいのに持ち帰れない人の気持ちを大切にしながら、食事を作ってくれる人や農家さんなどのつくり手と、食べる側との気持ちのよい関係づくりを目指して、「自主的に」「気軽に」「ファッショナブルに」そして「安全に」ドギーバッグができるよう普及活動を推進。

ドギーバッグは、食品ロスに関するさまざまな課題を解決する可能性。

具体的には、

- ①食品ロスが焼却・埋立される際の環境問題の解決
- ②資源の浪費によるムダの削減
- ③食に関わる人たちとの関係性
- ④食べ過ぎによる健康問題の解決

ドギーバッグでの持ち帰り例

1»



2»



3»



会員には、すぐ取り組めるように、ドギーバッグ活動スターターキットを配布。

〈キットの主な内容〉

- ドギーバッグ
- トートバッグ
- 自己責任カード



ドギーバックは
折りたたみ式



食中毒は、細菌の増殖を防ぐことが基本。
したがって持ち帰りの基本原則は、
細菌を「つけない」「増やさない」「殺菌」。

- ドギーバッグは、繰り返し使えるプラスチック容器（紙製ではない）
- バックに入れて携帯できる
- 容器は丸洗いでできる

持ち帰りは自己責任で！

食べ残し持ち帰り自己責任アプリ(仮)



本アプリは“食べ残し持ち帰り”を活性化・促進することを目的としています。

食べ残しをお客様の**自己責任**で持ち帰りたい人(会員)と、この活動に賛同する飲食店さまの間で、「自己責任承認」が記録されます。持ち帰りの履歴を会員、店舗それぞれで確認することができ、トラブルがあった際に、お客様の自己責任であったことを事後でも証明できます。

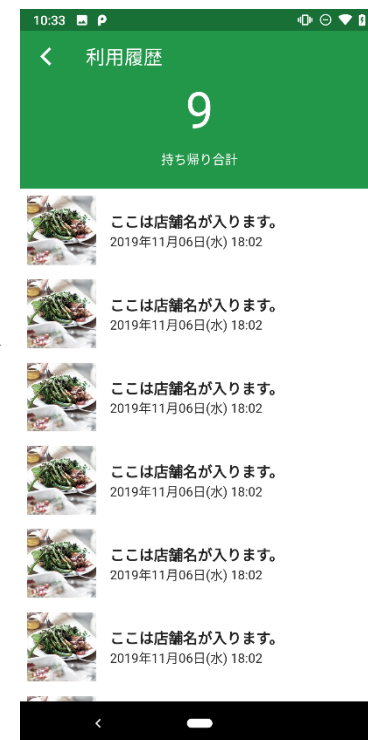
※画面、機能はサンプルです。変更される可能性があります。



・近くの持ち帰り可能店舗を調べられる



・QRコードを店舗側で読取り
(**持ち帰り承認**)



・持ち帰る食べ残しの写真を撮れる
・履歴参照ができる

食べ残し持ち帰りステッカー（店舗用）



FUJITSU

会員様をはじめ、消費者のみなさまは「持ち帰りたくても、**断られそうで言い出せない**」という心理状態にあります。
アプリと本ステッカーにより、店舗側から「あくまでも自己責任なら、持ち帰りはOKですよ！」とお客様の背中をそっと押してあげることができます。
店舗側でも、トラブルを防ぎながら、さりげなくスマートに持ち帰りを推進することができます。
売り上げアップに加え、「環境にやさしいサステナブル経営」「SDGs対応している経営」、など、ブランディングの効果も期待できます。



自己責任で持ち帰り！店舗用ステッカー（10cm×10cm）



インバウンド向け英語版（参考）

QRコード（右）のドギーバッグ普及委員会のHPから会員登録していただくとステッカーを送付させていただきます（有料）。データのみの場合は無料です。



<https://www.doggybag-japan.com/>